

[年度]平成 23 年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名]ひき縄カツオ漁獲量の年変動

[要約]

カツオひき縄漁が盛んな太平洋沿岸の都県について、カツオ漁獲量の年変動を調べたところ、有意な相関がみられた。また、比較的長期データが蓄積されている和歌山県の漁獲量を指標として、日本沿岸域へのカツオ来遊量を推定したところ、近年来遊量が減少し低水準になっていることが示唆された。

[キーワード] ひき縄、カツオ、漁獲量

[担当機関名] 水産試験場・資源海洋部

[連絡先] 0735-62-0940

[部 会 名] 水産

[分 類] 研究

[背景・ねらい]

和歌山県の紀南地方では、カツオのひき縄漁業が盛んである。ひき縄のカツオは鮮度が売りで、最近では地域ブランドとして知名度もアップし、単価向上による漁業者の収益向上が期待されている。その一方で、年々漁獲量が減少しており漁業者からは資源の減少を懸念する声が上がっている。

そこで、本研究では、日本沿岸域へのカツオ来遊量を把握する目的で和歌山県を含む太平洋沿岸 9 都県のひき縄漁獲量の年変動を調べ、その傾向を考察した。

[成果の内容・特徴]

1. 漁獲量の年変動を主要 9 都県間で比較したところ、多くの都県間で有意な正の相関がみられた（表 1、図 1）。ひき縄漁業によるカツオ漁獲量は、春季に日本南岸沿いを北上するカツオ魚群の来遊量をよく反映していると考えられる。

2. 比較的長期データが蓄積されている和歌山県の漁獲量を代表として傾向を見ると、1980～1990 年代は 1～3 年間隔で大きく変動していたが、2004 年に大きく減少し、それ以降は多い年が出現していない。漁獲量の 5 ヶ年移動平均をとると、1980 年代に比べ 1990 年代は高水準で、2000 年代に入って減少した後、低水準が継続している（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

日本近海へのカツオ来遊量について、国際水産資源研究所とカツオ漁業に関する 9 都県が連携し、国際会議の議論に耐えうるレベルのデータを整備していく。

[具体的データ]

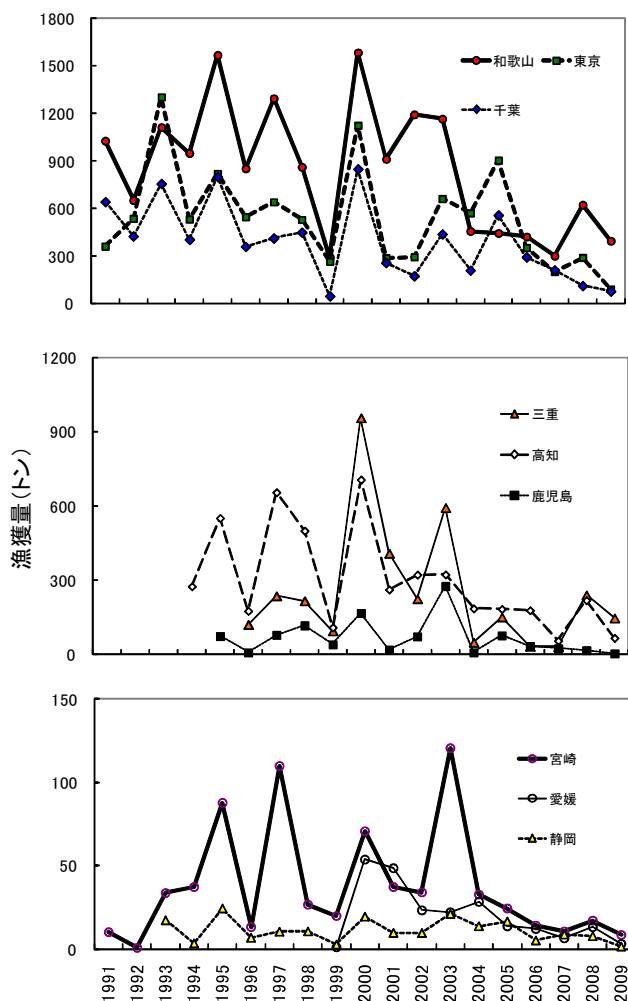


図1 太平洋沿岸9都県の主要港における、ひき縄による春季(3~5月)カツオ漁獲量の年変動

表1 太平洋沿岸9都県の主要港における、ひき縄による春季(3~5月)カツオ漁獲量の年変動についての相関係数

	千葉	東京	静岡 <sup>#</sup>	三重 <sup>#</sup>	和歌山	高知 <sup>#</sup>	愛媛 <sup>#</sup>	宮崎	鹿児島 <sup>#</sup>
千葉	-								
東京	0.83**	-							
静岡	0.78**	0.75**	-						
三重	0.69**	0.62*	0.67**	-					
和歌山	0.71**	0.49**	0.64**	0.79**	-				
高知	0.75**	0.69**	0.58*	0.68**	0.88**	-			
愛媛	0.63*	0.56	0.60	0.75**	0.78**	0.81**	-		
宮崎	0.45	0.35	0.62**	0.63*	0.63**	0.79**	0.53	-	
鹿児島	0.54*	0.56*	0.65**	0.71**	0.56*	0.53*	0.32	0.68**	-

\*5%水準で有意, \*\*1%水準で有意

解析を行った年数は1991年~2009年の19年。  
注) #は年数が不足していることを表す。静岡は1993年、三重は1996年、高知は1994年、愛媛は1999年、鹿児島は1995年から。

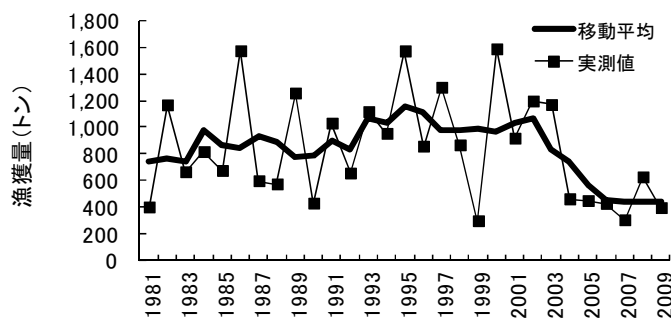


図2 和歌山県主要3港(田辺, 串本, すさみ)のひき縄による春季(3~5月)カツオ漁獲量の年変動および5年移動平均。

[その他]

研究課題名: 高度回遊性魚類調査

予算区分: 委託事業

研究期間: 平成20~24年度

研究担当者: 御所豊穂

発表論文等: カツオ沿岸ひき縄漁況の経年変動, 月刊海洋, 497号 (Vol. 44, No. 3), 2012.